

## 丹南中学校授業スタンダード

①予習の工夫	<p>予習を通じて、本時の学習内容に見通しを持たせて授業に臨ませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習動画の作成と配信（配布）</li> <li>・プリントによる予習教材</li> </ul>
②めあて・ながれの提示 板書の工夫	<p>授業のはじめに本時の「学習のめあて」を必ず提示し、本時の学びのポイントを明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・板書による「学習のめあて」の提示の工夫をする。</li> </ul> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習のめあて</span>・・・ _____</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の行程の提示</li> </ul> <p style="padding-left: 40px;">作業の提示 例) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">個人</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ペア</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">グループ</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・板書の工夫 構成に合わせた区切り</li> <li style="padding-left: 40px;">チョークの色使いの工夫</li> <li style="padding-left: 40px;">子どもの意見を取り入れたスペースの確保</li> </ul>
③学習規律	<p>授業を通じて、生徒に学習規律を定着させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丹南中学学習規律10箇条の徹底</li> <li>・忘れ物、ベル着等の確認、指導</li> </ul> <p style="padding-left: 40px;">※忘れ物や遅刻、不適切な発言や私語はその都度、授業者からの指導を入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表、発話のルール作り ※スタンダード⑦参照</li> </ul>
④問題、まとめの視覚化	<p>生徒に視覚的に訴えかけるような、問題やまとめの提示をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を用いて、視覚的にわかりやすい提示をする。</li> <li>・ICT機器でなくても、ピクチャーカードや絵などで、視覚的に訴える提示をする。</li> </ul>
⑤個の学びの充実	<p>個人でじっくり考える（練習問題を解く）時間を授業内で十分確保する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で個人作業をする機会（個人で考える機会）をつくる。</li> </ul> <p style="padding-left: 40px;">例（英語で）文法の練習問題・自分の意見を書いた英作文など</p> <p style="padding-left: 40px;">（数学で）文章題や図形の問題の取組</p> <p style="padding-left: 40px;">（社会で）資料からの読み取り</p> <p style="padding-left: 40px;">（技能系で）リコーダーの練習時間 美術の絵画など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師による机間巡視での生徒支援</li> <li>・TTによる支援の工夫</li> </ul>
⑥ペアやグループでの学習 活動の工夫	<p>ペア学習やグループ学習などを積極的に取り入れ、「教え合ったり」「伝えあったり」し、対話を通して理解を深めるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科において、主体的・対話的な学びへの手法を研究する。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個の学びで考えたことを、グループやペアで伝えたりすることで学習の理解が高まる取組をする。</li> <li>・「教え合う」「伝え合う」ことによって、生徒の表現力を高める。</li> <li>・教師による支援の工夫をする。</li> </ul>
⑦発言、発話のルール作り	<p>教室の言語環境、掲示物などに明確なルールを設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・敬語の徹底</li> <li>・発表の仕方 「はい」→立つ→「〇〇です。」</li> <li>・大きな声でわかりやすい発表</li> <li>・説明の仕方のルール作り 「私は〇〇だと思います。なぜなら・・・」など伝える力を伸ばすための工夫をさせる。 ※朝の会や終わりの会などでも司会、発表の機会を作る。</li> <li>・スピーチ等の導入</li> </ul>
⑧教師の話し方、提示のしかた	<p>教師の話し方や指導での言葉遣い等から、生徒の指標となれるように工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丁寧な言葉遣いをする。</li> <li>・子どもと目を合わせて対話する。</li> <li>・少数の子どもの意見で授業を進めない。</li> <li>・子どもの発言を途中で止めない。</li> </ul>
⑨「認める」の徹底	<p>授業中のあらゆる場面で「認める」機会を大切にし、個人のがんばりを評価できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の発言や意欲を認める</li> <li>・スピーチや説明内容を認める。</li> <li>・書画カメラ等を用いて作品を認める。 実技を認める。</li> </ul>
⑩振り返りと評価の方法	<p>授業のまとめ、振り返りを大切にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシートの活用 理解の定着度、深まりの確認 メッセージを返すことで生徒の意欲を高める。</li> <li>・評価規準に基づいた評価をする。</li> </ul>